

当院で GLP-1 受容体作動薬（ビクトーザ®、バイエツタ®、リキスミア®、ビデュリオン®、トルリシテイ®）による治療を受けられた患者さまへ

GLP-1 受容体作動薬の臨床効果予測因子についての検討

<対象者情報>

現在、過去に糖尿病の治療を受けられた患者さまを対象に研究を行っております。過去に糖尿病の治療のため GLP-1 受容体作動薬による治療を受けられた方にこの観察研究の詳細をお知らせするために、院内及びホームページ上でお知らせしています。

<研究の背景・目的・意義>

現在 GLP-1 受容体作動薬は糖尿病の治療薬として幅広く使用されています。しかし、どのような患者さまで効果が出やすいか、あるいは出にくいかということに関してはまだ明確なことはわかっておりません。そこで、GLP-1 受容体作動薬で効果が出やすい方や出にくい方の特徴を調べ、比較検討することで今後どのような患者さまに GLP-1 受容体作動薬を使用したらよいか予測することができると考えられます。

<研究機関ならびに対象>

金沢大学附属病院

2010年6月11日（金）～2016年12月12日（月）までに GLP-1 受容体作動薬による治療を受けられた患者さま全員が対象です。

<研究の方法>

本研究では通常の診療通りの方法で血液（負荷試験を含む）、尿検査、合併症関連検査（眼底写真、心電図等）が行われます。そして、対象患者さまの性別、年齢、体重、血圧、糖尿病の罹病期間、使用薬剤の情報を収集し、結果の解析

を行います。本研究によって新たな受診や検査などが必要になることはありません。

<個人情報保護への配慮>

本研究で用いられる資料では個人情報は匿名化され、個人が特定されることはありません。また、個人が特定されるような情報は一切公表されません。

この研究に参加するかどうかは患者さまの自由であり、たとえ研究への参加を拒否された場合でも不利益を受けることは一切ありません。上記の研究対象に該当する患者さまで、ご自身の診療情報を本研究に使わないで欲しいというご希望やご質問があれば、平成 29 年 12 月 31 日までに下記の窓口までご連絡ください。

<研究参加に伴う費用について>

本研究はこれまでの治療や診療録の臨床情報を用いて実施いたします。そのため患者さまに新たな費用が生じることはありません。

なお、この研究への協力に対する報酬はありません。

<研究結果の開示について>

研究の成果は、個人が特定されない方法で学会発表や学術誌などで公表されることがあります。

<主たる研究機関>

金沢大学附属病院 内分泌・代謝内科

八木邦公

(電話 076-265-2252)

<問い合わせの窓口>

金沢大学附属病院 内分泌・代謝内科 八木邦公

〒920-8641 金沢市宝町 13-1 電話 076-265-2252 FAX 076-234-4256